

デジタルハリウッド大学

2025 年度 一般選抜 A 方式

国語 [60 分]

【 注 意 事 項 】

1. 試験監督の指示があるまでは、問題冊子は開かないこと。
2. 試験監督から指示があったら、解答用紙に氏名・受験番号を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークすること。
3. 試験開始の合図後、この問題冊子を開き、36 ページ(白紙ページ含む)揃っているか確認すること。
4. 乱丁、落丁、印刷不鮮明などがある場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 解答は、すべて別紙の解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
7. 不正行為を行った場合は、その時点で受験の中止と退室を指示され、同日受験したすべての科目の成績が原則無効となる。
8. 解答用紙は試験終了後、回収される。問題冊子は持ち帰っても良い。

これは2ページ目です。
次のページから問題が始まります。

第二問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

アメリカの大学に留学したナオミは、得意だと思っていた英語での会話がままならず周囲となじめずにいたが、寮の隣室のアンドレアに誘われて、マイノリティの学生たちが共同で運用するコープの学生食堂「サード・キッチン」に加入したことで、初めて温かく迎え入れられたと感じる。しかし、自分の何気ない言動が仲間への配慮を欠いていたことに気付かされ、サード・キッチンに行きづらくなってしまう。

「思い込みに気付いた時点で、これから変わっていくと思わない？」

「思いたい、けど、自信ない。^①自分が、信じられない……わたし、いっぱい^(注)ステレオタイプ、あるの。気付いてないのも含めて、たくさん。人と国、文化や歴史や、いろんなバックグラウンド、どうしても、完全には、切り離せない」

アンドレアはふーっと大きく息をついて考え込む。背後では洗濯機が激しい音を立てて、脱水を始める。いつもどこか壊れてるんじゃないかとビクついてしまうけど、今日は格別だった。

「高校のフランス語の授業で聞いたんだけど、後悔の語源は、ものすごく悲しむって意味の古いフランス語なんだって。当時なるほどなあって思ったの」

「悲しむ……」

ずっと後悔に押しつぶされそうな私の心にも、確かに悲しみとしか呼べないものがある。最初からあったのかもしれないけど、それとは捉えていなかった。アンドレアにも、そんな強い後悔があるのか。

『後悔しても遅い』とか、『覆水盆に返らず』とか、できるだけ後悔しないように、後悔しても無駄って言葉が多いけど、すっごく悲しむこと自体は無意味なのかな？　で、あたし^{（注）} エステバンに聞いたことがあんの。『ミルクをこぼしちゃったらどうする？　コップには戻せない、もう飲むことはできないけど』って。そうしたら、あの子、なんて言ったと思う？」

アンドレアの言わんとすることを測りかねて、首を振る。

『猫を呼ぶ！　虫さんも呼ぶ！』だって」

^{虫さん} Bugieと得意げに言う小さな巻き毛の男の子を想像すると、ⁱⁱ柔らかな毛布に触れたみたいな気分になる。

「エステバン、本当に、可愛いね。しかも、賢い」

「でしょでしょ？　それで^②ちよつとした真理じゃない？　ナオミもさ、少なくともその、ものすごく悲しい気持ちは、サード・キッチンをやめる前にジウンやニコルに伝えたらいいんじゃないかな」

「それは——ちゃんと話して、謝りたい。けど、拒絶されたらって、怖い。謝罪、押し付けたく、ない。あと、恥ずかしい、気持ちも、あつて」

アンドレアはわかるよ、と繰り返し^{うなず}頷く。

それに本当は、アンドレアと彼女たちの親しい輪の中に入りたかった。アンドレアが彼女たちを“クール”と評するように、アンドレアや彼女たちにも、いつか私のことを、そう思っただけだった。でも今の私は、クールから何光年も遠い。

「許すとかは別に、あの二人は、きつとちゃんと聞いてくれるよ。うまくいかなかったらあたしも……ううん、ナオミの気持ちは、ちゃんと伝わると思う。自分のしたことが、ものすごく悲しいんだって、私には伝わったから」

もう一度小さな爆発のような音がして、ようやく脱水が終わる。ⁱⁱⁱ私の中にも小さな火花の気配が残る。アンドレアに「くさくなっちゃ

うよ」と促され、生温かく湿った洗濯物をドラム式の乾燥機に移す。コイン投入口にクオーターを入れると、腕全体から強い石鹼せっけんの香りが匂い立った。町の雑貨屋で、一番安い洗剤の香り。

「伝えられる、かな」

もっちゃん！ というアンドレアの笑顔は、私に小さな自信をくれる。

「あと」
って話だけど、それっていい側面もあると思うんだ。あたし、もともと日本っておもしろそうとは思ってたけど、ナオミのお陰でどんどん興味が募ってるよ。マジでいつか行きたい！」

「わたしも……！ 私も、^(注3)プエルトリコやドミニカのこととか、ニューヨークも、スペイン語も、知りたいって、思った。あなたの
お陰」

胸の奥がふわふわと温まる。たぶん私はこの先何度この時間を思い出す気がした。洗濯物の湿気で少しだけぼやけたレンズで、そこそ缶に詰めた幸せな景色を覗のぞき見るみたいに。

「親しくなればなるほど、その人を知りたくて、その背景にも興味が湧くよね。どんなメガネで世界を見てるのか、見てみたくて」

「たまに、虫眼鏡になったり、ね」

「あはは、水中眼鏡かも？ じゃあ明日、コープで席用意して待ってるね」

心が震える。恐怖じゃなく、期待し過ぎてはダメだという戒め。許してもらおうなんて、^⑥のうのうと考えるな。でも。

ためらいながら頷くと、アンドレアが「やったー！」と手をかざしたので、思い切り ^(注4)ハイファイブした。iv 乾燥機の熱気がこ

もる洗濯室に、ばちん、と小気味いい音が響いた。

翌日は、色のない冬に後戻りしたような 厚い雲に覆われた日だった。意を決してスロープを上り、サード・キッチンへ続くドアロックスを解除する。ずっと人のいない時間帯に行っていたから、廊下にまで満ちた匂いと音と笑い声が懐かしい。明かりのついた食堂へ足を踏み入れると、食べ物も、おしゃべりに^⑧興じるメンバーたちも、すべてがあたたかい色に溢れて、頬のあたりがくすぐたくなる。

「ナオミ、なんか久しぶり！ 調子どう？」

「ちょっと病気？ ずいぶん細くなって、消えちやいそう」

ラーレやマライカが大げさなほどに構ってくれる。マライカがセーター越しに私の二の腕を測るように揉んできたので、^⑨殊勝な顔を保つつもりが、くすぐたさに笑ってしまった。

「心配したよ。元気？」

キッチンの手洗い用シンクで、ニコルが話しかけてきてくれた。たくさん用意していた謝罪の言葉が、⑩こみ上げるものに押されて詰まってしまう。何度も繰り返したシミュレーションの中では、ニコルはこんな風に気さくに、私に笑いかけてくれたりはしなかった。

「あの、ごめんなさい。本当は、もう、来ちゃいけない、と思った、けど」

「なに言ってるの！ これでやめられたら、むしろ私が気に病むよ」

ああまた間違えてしまった。こんな風に言うはずじゃなかった。私はどうやっても、ここでは“正解”の振る舞いに辿り着けない。もう英語のせいばかりじゃないだろう。

「気にしてるってことは、私の気持ちを想像してくれたってことでしょ？」

言葉が出ない代わりに、私は必死で頷く。次の瞬間、ニコルの手がふわりと私の肩を包んだ。

「それで十分。またここで、会えてよかった」

許ゆるされている——どうして与あたえることが許ゆるすことなのか、この単語のスペルがずっと不思議だった。でも④今はなんとなくわかるよう
な気がする。ニコルが私にくれるもの。受け渡された実感と一緒に、肩から伝わる温度が胸を満たし、深く吸い込むと小さく体が震え
た。鼻の奥がむずむずするのを堪こえようと全身で力むと、ニコルが慌てて手を離す。

「おっと、これも触りすぎ？ パーソナル・スペースが近すぎて指摘されたばつかなの。日本人は家族でもハグやキスをぜんぜんしな
いんだってね」

「確かに、ない。けど、いい文化だと思う。私、まだ慣れてない、うまくできないかも、だけど、『郷きょうに入いっては、郷きょうに従したがう』！」

「よかった！ じゃあ、ローマ人と練習しとく？」

ニコルがふざけて両手を広げたので、「うん」⑤思おもい切きって抱かきついてみた。二人して笑いながら、「おー」とも「うー」ともつかない、
ため息のような声がもれる。やっぱりハグは、温かくて柔らかくて、とても心地がいい。

「なにに、ハグタイム？ 僕もー」

いつの間にそこにいたのか、テレンスがニコルと私をまとめて抱きしめてくる。

（白尾悠『サード・キッチン』より。出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある）

（注1）ステレオタイプ——多くの人が無意識に持っている先入観や固定観念。

（注2）エステバン——アンドレアの九歳の弟。

（注3）プエルトリコやドミニカ——アンドレアの両親のルーツ。

（注4）ハイファイブ——ハイタッチ。

問 1 傍線部①の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① のうのと

- ア 何不自由なく
イ 恥ずかしげもなく
ウ 何の努力もせず
エ お気楽に
オ あつかましく

問 2 傍線部②の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② 興じる

- ア 興味を持っている
イ 夢中になっている
ウ 集中している
エ 忙しくしている
オ 笑いあっている

問3 傍線部㉔の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ 殊勝な

- ア 憚然^{ぶぜん}とした
イ 真剣な
ウ 勝気な
エ 動じない
オ もっともらしい

問 4 傍線部①「自分が、信じられない」とあるが、ナオミはなぜこのように言ったのか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 生まれ育った故郷で長い間培われてきた日本人としての感性はどうしても捨て去ることができず、外国になじむことは簡単ではないと思ったから。

イ アンドレアにはサード・キッチンに行くことを勧められたが、仲間たちに拒絶されたら、自分は平常心を保つことはできないだろうと思ったから。

ウ 自分の思い込みに気付くことができたとしてもすでに手遅れで、仲間たちを怒らせてしまった気まずさを忘れることはできそうにないと思ったから。

エ 日本で暮らしている時には気付かなかった偏見や差別が自分の中に存在しており、また無自覚に人を傷つけてしまうかもしれないと思ったから。

オ 後悔で押しつぶされそうになっている今は、恥ずかしい気持ちでいっぱい、仲間たちにうまく気持ちを伝えて謝罪できる自信がないと思ったから。

問5 傍線部②「ちよつとした真理」とあるが、アンドレアの考える「真理」とはどういうことか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 「後悔」の語源は「ものすつごく悲しむ」ということであり、後悔して悲しむのは、人として当たり前の感情だということ。
- イ 失敗して取り返しがつかないと後悔しても、発想を変えることで、その失敗に新たな価値を見出すこともできるということ。みいだ
- ウ 自分にとってどんなに貴重なものであっても、他者にとって必要なものなら、分け与えるのを惜しむべきではないということ。
- エ 失敗は取り返せはしないのだから、どうしようもないとあきらめて、後悔しつづもできる限り挽回ばんかいに努めるべきだということ。
- オ 「後悔しても遅い」「覆水盆に返らず」は真理とはいえないので、後悔する事態に陥っても、悲しんではいけないということ。

問6 空欄 に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 思い込みに気付いた時点で変われる
- イ ステレオタイプに気付いてない
- ウ バックグラウンドが切り離せない
- エ 後悔の語源は、ものすつごく悲しむこと
- オ ジウンやニコルに悲しい気持ちを伝える

問7 傍線部③「こみ上げるものに押されて詰まってしまう」とあるが、この時のナオミの様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 久しぶりに行った人の多い時間帯のサード・キッチンには、おいしそうな食べ物匂いと明るい笑い声に包まれており、自分の軽率な言動によって失ったものの大きさを痛感している。

イ 謝罪を拒絶されることを恐れながらサード・キッチンを訪れたのに、ラーレやマライカが大げさなほどに構うのでつつい笑ってしまい、ニコルに合わせる顔がなくなっている。

ウ ジウンやニコルにきちんと話して謝ろうと、何度も心の中で謝罪のシミュレーションを繰り返したのに、いざ本人に話しかけると、緊張のために頭の中が真っ白になっている。

エ 謝罪の言葉をたくさん用意したうえで、意を決してサード・キッチンを訪れたものの、ニコルが何もなかったように気さくに話しかけてきたので、肩透かしを食った気分になっている。

オ 許してもらえるなどと期待してはいけないと思い詰めていたが、ニコルが屈託なく笑いかけたことが予想外で、胸がいっぱいになり、考えてきた言葉が出てこなくなっている。

問8 傍線部④「今はなんとなくわかるような気がする」とあるが、ナオミはなぜこのように思ったと考えられるか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 英語の「許す」に「与える」のスペルが入っている理由がわからなかったが、ニコルの思いやりの言葉と態度から、「許す」と「与える」の関係がぼんやりと実感できたから。

イ 実際にニコルと話ができたことで、許す・許さないとは別に、ちゃんと話を聞いてくれる人だというアンドレアの言葉は正しかったと漠然とはあるが実感できたから。

ウ 私の気持ちを想像してくれただけで十分だと言い、再会を喜んでくれるニコルの寛容さに触れて、自分に欠けているものが何であるかを不確かながらも実感できたから。

エ 英語の「許す」に「与える」という語が含まれていることをずっと不思議に思っていたが、ニコルの体温に包まれたことで、「許されている」ことをそれとなく実感できたから。

オ またも「正解」の振る舞いに辿り着けず、卑屈な言葉を発してしまったことで感じている自己嫌悪を、ニコルの抱擁が消してくれたとありがたく実感できたから。

問9 傍線部⑤「思い切って抱きついてみた」とあるが、この時のナオミの様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア ニコルが謝罪を受け容れてくれたことに感謝しつつ、これからもっとニコルと仲良くなるために、彼女のパーソナル・スペースの近きにも慣れていかなければならないと決意している。

イ 家族でもハグやキスをすることがない日本人の家庭で育ったナオミには、ハグはまだ抵抗があるが、慣れなければこの環境になじむことはできないと考え、勇気を出そうとしている。

ウ 文化の違いを超えて人間関係を育むために、人を傷つけたり後悔したりすることを恐れて萎縮していた自分の殻を破り、異文化を積極的に体験し理解しようという気持ちになっている。

エ 英語にも日本のことわざと似た「郷に入つては、郷に従う」^{D. o. a. s. R. o. m. a. n. s. D. o.}という言葉があることを思い出して、言語や文化は違っても人間の本質は変わらないことに気付き、うれしくなっている。

オ むやみに他人に触られたくない日本人とは距離を取らなければならないと思い込んでいるニコルに対して、自分はニコルとのハグは嫌いではないという意味を伝えようとしている。

問 10 本文の表現についての説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 波線部ⅰ「背後では洗濯機が激しい音を立てて、脱水を始める。」には、自分の言動が人を傷つけてしまったことに対する後悔と恥ずかしさで気持ちの整理がつかないナオミの動揺が表現されている。

イ 波線部ⅱ「柔らかな毛布に触れたみたいな気分になる」では、「猫」や「虫さん」にミルクをふるまおうとする幼いエステバンの優しさとかわいらしさに癒やされ、ナオミの心が和む様子が表現されている。

ウ 波線部ⅲ「私の中にも小さな火花の気配が残る。」では、アンドレアの励ましを受けて、自分の気持ちを伝えることができるかもしれないというかすかな希望がナオミの心に生まれたことが表現されている。

エ 波線部ⅳ「乾燥機の熱気がこもる洗濯室に、ばちん、と小気味いい音が響いた。」には、アンドレアに勇気をもらい、すっかり不安が消えて謝罪しようと決意したナオミの思いが表現されている。

オ 波線部ⅴ「色のない冬に後戻りしたような、厚い雲に覆われた日だった」には、うまく気持ちを伝えられるか自信がなく、拒絶されることも予想して気が重くなっているナオミの心情が表現されている。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

現在の状況をとらえるにあたってとくに注目すべきは、言語の獲得をふまえたテクノロジーの世代を超えた蓄積とそれにもとづいた^(注1)通増的な^(注2)発達の影響であり、その発達の極限として人間がみずからの生物学的な限界を超える「シンギュラリティ(技術的特異点)」が想定されるにいたった点であろう。

今日では、^(注3)レイ・カーツワイルが述べるように、遺伝子工学やナノテクノロジー、ロボティクスにより、人間は生物学的な拘束条件から自由になるいっぽうで、人間と同等以上の能力をもつ人工知能^(注4)(ニック・ボストロムのいう「スーパーインテリジェンス」)の出現を予感しつつある。^(注5)アンディ・クラークが『生まれながらのサイボーグ』で述べているとおり、人間はその脳のもつ卓越した可塑性により、言語、文字からはじまって、みずからが発明したさまざまな道具や記録媒体・記憶装置といった人工物によって生物学的な身体を補綴^(注6)し、生物学的な限界を超えた知覚・推論・運動の能力を獲得するとともに、心についても生物学的な自他の境界をこえ、テクノロジーをその一部とする「拡張した心」をもつようになった。「自伝的自己」をそなえ、複雑で大規模な社会集団を構成し、そのなかで他者とのコミュニケーションをおこなう「^(注7)二分心崩壊以後」の人間の心は生物学的な基盤の上に成立しているが、言語やみずからが産みだした社会制度やテクノロジー抜きではそもそも成立しえず、存続も不可能な^(注8)文化的構築物としての側面を有するのである。

テクノロジーの手前の生物学的な知覚のレベルですでに、もつともらしく編集され、辻褄あわせがおこなわれた結果を「現実」と受けとっているにすぎないということは、^(注9)サクシをはじめとするさまざまな認知実験や脳神経科学における症例研究などによって明らかになっているが、さらにテクノロジーの介在によって構成された「現実」に浸^(注10)かっていることで、たとえばライブ配信の場合であれば、じつさいには手もとの端末のなかでローカルに再構成されている音響を聴いているのに、遠隔地の会場に響いている音響そのものを聴

いているかのように思いなし、さらにそれを「現実」の一部としてあたりまえのように受容しているいっぽうで、ラジオのような筐体をもつ装置から音声らしきものが聞こえれば、じつはそれが^(注6) フォルマント合成による人工音声発生装置であって、固有の場所も固有の身体・人格をもたない「誰のものでもない声」がその場で生成されているのにもかかわらず、あたかも遠く離れた場所で誰かがしゃべっているのを聞いていると思ひなすといった事態が発生することを思い起こせばじゅうぶんであろう。それゆえレコードやCD、ビデオやDVDのような記録メディアの再生や、通信技術の発達によるダウンロード、ストリーミングなどによって場所と時を選ばずに何度でも繰り返して音楽を聴くことができるようになった現在において、いぜんとしてコンサートという制度は存続し、「コンサート＝ライブ」という了解（ないし「思いなし」）も存続しているとはいえ、^② コンサートがもはや「現実」に占める位置は同じではありえないことは、たとえばライブ会場で流れている音響そのものが記憶媒体からの再生であって、その場にたしかにいますのは歌手の「生の声」は不在であるという、いわゆる「口パク」のようなことが現実を生じていることからしても明らかだろう。テクノロジーの高度化と普及によって人間の身体を紹介することが必須ではなくなり、人工音声合成の結果をアバターに結びつけてネットワークを介して配信することさえ普通になりつつあるなか、メディアに記録され格納されて伝達される音響のパターンと音楽を同一視することが普通になってきている。「神なき時代」におけるシンギュラリティに向けた「人の消えさり」の過程のなかでなお可能な「音楽」を追求しようとすれば、いまや「音楽」をなりたたせている条件の批判的再構成というしかたでしか可能でなくなっているように思われる。

そうした状況において、音楽が音響に^⑥ カンゲンされつつあることを端的に示す事例として、^(注7) デイヴィッド・コープの人工知能による自動作曲の試みを、同じ状況にあって批判的再構成というしかたで「音楽」の可能性を追求するラディカルな試みの事例として、「逆シミュレーション音楽」をはじめとした^(注8) 三輪眞弘の活動を挙げることができよう。両者はコンピュータをもちいたアルゴリズム・コンポジションという点では共通するものの、音楽にたいする考え方の違いから、その適用のしかたにおいては^⑧ 真つ向か

ら対立した姿勢を示している。

コープはデータ駆動型自動作曲のアプローチにより何人かのクラシック音楽の作曲家の作品の模倣をおこなってその結果を公開してきており、それによってコンピュータにも創造性があることを論証しようとしている。彼によれば創造性には意識はもちろん、知性も不要だし、生命すら不要であるというのだが、音響パターンの組み合わせ方の選択という側面にフォーカスして注意深く選択された創造性の定義は工学的には申し分ないようにみえて、その定義の妥当性や学習対象のコーパスに含まれる作品の作曲家の様式の模倣のできばえを評価基準として設定することの妥当性が問いに付されることはないようだ。コープはコンピュータが生成した作品を人は真つ当に聴こうとさえしないと不満をつのらせるが、そうした態度を招来する原因の一端はあきらかに、特定の作曲家の様式の模倣をおこなうという彼がみずから選んだやり方に起因しているはずである。コープは、模倣のもととなった作品と生成された作品を比較すれば生成された作品のオリジナリティがわかるという言い方をするが、端的にいつて、そういう比較を聴取にもちこむことじたいが、対象を「音楽」として受容することとあいられないことにコープは気がついていないようだ。(Ⅰ)

コープのみならず一般におこなわれているAIによる「自動作曲」は、じつさいには作曲のプロセスのごく一部を(人間があらかじめ設計して切りだして)問題としてあたえているにすぎず、「音響態」が「音楽」の必要条件だが十分条件ではないように、音響パターンを模倣し、組み替えて継ぎはぎすることのみをもって「作曲」が汲みつくされるわけではない。

そし

てそのかぎりにおいてAIには作曲はできない。そもそも似ているかどうかを議論する時点で、その結果は「音楽」ではなく、そうした評価基準しかもたないAIは生成の結果を「音楽」として聴くことができない。(Ⅱ)人工知能による自動作曲の研究はコープのものに限られるわけではないが、少なくともその目的と、目的に対応した評価基準がコープのそれと共通であるかぎりにおいては、一見すると人間の能力に追いつき、ときとしてすでに凌駕しているようにみえたとしてもシンギュラリティまでの距離が縮んだわけ

ではなく、④「まだ到達にはほど遠い」といべきなのだ。

いっぽう、三輪眞弘の「音楽における三つの「相」にもとづく「逆シミュレーション音楽」の定義」は、「演奏会や作曲家、演奏家、聴衆の区別など、音楽に係る既存の社会的制度は前提としない」で、「地球上の古代人や未開民族が行っていたかも知れない、あるいは行うことが可能であったような音楽（これを「ありえたかも知れない音楽」とよぶ）を空想し、主にコンピュータ・シミュレーションによつて検証しながら新しい音楽を生み出す試みである」。（Ⅲ）したがって「規則の生成」「解釈」「命名」という三つの相はそれぞれ、既存の制度的な前提をいわば「括弧入れ」したうえで「音楽」が成立するための必要十分条件として示されているのだが、本稿の問題意識のもとでそれぞれの相が意味するところをわたしなりに敷衍（ふえん）すると以下になるだろう。

- (A) 「規則の生成」の相が指摘しているのは、それを実行することにより音響態として実現されるプログラム（かならずしもコンピュータ・プログラムだけを意味しない）が音楽にとつて必須であることである。規則は（かりにそれが力学系として記述可能で、ある自然現象の説明にもちいられるものであったとしても）自然法則ではなく、人為的な「制度」であり、それによつて禁止（タブー）がさだめられるものである。（Ⅳ）
- (B) 「解釈」の相で主張しているのは、人間の身体を媒介としたリアリゼーションが音楽にとつての必要条件であることである。たんなる規則は音楽ではないし、規則をたんなる音響態に変換した結果もまた音楽ではない。（Ⅴ）さらに規則は自然的な本能のもつ法則ではないので、まちがいにうたがうためには学習による習得、身体化が必要である。つまり、「規則」は身体的技能のような手続き型記憶の一部として無意識化されなくてはならないということを告げている。
- (C) 「命名」の相によつて指摘しているのは、音楽が社会的・文化的に共有され、デン・シヨウされる文脈なしには成立しえないことで

ある。それはまた、音楽が（いま・ここ）を共有できる生物学的な群れ＝集団のもつ制限を超えた時空の拡がり^{ひろ}において社会制度を構築・維持することが可能となるのは、「物語（神話）」を共有することによってであることを告げてもいる。

かくして三輪の「逆シミュレーション音楽」の三つの相は、かつては「隠れたる神」に向けての「祈り」の形式であった「音楽」が、いまなお成立するための必要十分条件を示したものととして、「ライブ」の可能性を問いなおすための拠点となりうると考えられる。

（山崎与次兵衛「二分心崩壊以後／シンギュラリティ以前の展望からみたライブの可能性」『配信芸術論』所収より。

出題の都合上、本文中に一部省略・変更した箇所がある）

（注1） 通増——数量がだんだん増えること。

（注2） レイ・カーツワイル——一九四八年生まれ。アメリカの発明家、事業家、思想家。

（注3） ニック・ボストロム——一九七三年スウェーデン生まれ。哲学者。オックスフォード大学教授。

（注4） アンディ・クラーク——一九五七年生まれ。イギリスの哲学者。エジンバラ大学教授。

（注5） 二分心——アメリカの心理学者ジュリアン・ジェインズが提示した人間の心についての仮説。意識の起源は今から約三千年前であり、それ以前は「神の声」と、「神の声」に従う心の二つによって精神が構成されていたというもの。

（注6） フォルマント合成——録音された人間の音声を使わず、周波数を組み合わせて人工的な音声を作る方法。

（注7） デイヴィッド・コープ——一九四一年生まれ。アメリカの作曲家、音楽理論家。

（注8） 三輪眞弘——一九五八年生まれ。日本の作曲家。

問 11 傍線部①に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① サクシ

- ア 作文を先生にテンサクしてもらう
- イ ライバルに勝つためにサクリヤクを巡らす
- ウ 領民をサクシユする領主に抵抗する
- エ 必要な情報をケンサクする
- オ シコウサクゴの末、実用化に成功した

問 12 傍線部②に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② カンゲン

- ア 父は今年カンレキを迎える
- イ 窓を開けてカンキをする
- ウ カンセイな住宅地に居を構える
- エ シュウジンカンシの中で恥をかかされる
- オ 彼のついた嘘(うそ)をカンパする

問 13 傍線部㉔に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ デンシヨウ

- ア デビュー作がゲキシヨウされる
イ 交渉の結果、シヨウダクを得られた
ウ 年齢をサシヨウする
エ 事件の顛末^{てんまつ}をシヨウジュツする
オ 参加者一同で万歳をシヨウワする

問 14 次の一文は、本文中の（Ⅰ）～（Ⅴ）のうちのどの部分に付け加えることができるか。適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

つまり「音楽」が「自然」ではなく「文化」に属していることを告げている。

ア （Ⅰ） イ （Ⅱ） ウ （Ⅲ） エ （Ⅳ） オ （Ⅴ）

問15 傍線部①「文化的構築物としての側面を有する」とあるが、このように言えるのはなぜか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア テクノロジーの進展により、現代人は人工物によって生物学的な身体を超越するのみならず、心までも生物学的な自他の境界をこえて

いるから。

イ 人間は、脳のもつ卓越した可塑性によって産みだしたさまざまな道具の力を借りて、生物学的な限界を超えた知覚・運動の能力を獲得してきたから。

ウ テクノロジーの進展により、さまざまな発明で利便性を獲得しただけでなく、みずから発明した人工知能の能力が人間を超えるところまでできているから。

エ 人間は、複雑で大規模な社会集団を構成し、言語や文字、発明した道具や人工物を使った他者とのコミュニケーションを通して、社会生活を維持しているから。

オ 人間は、生物学的な身体と心を基盤とするが、言語や社会制度やテクノロジーなど人為的に産みだした文化的基盤なしには生活できない存在だから。

問 16 傍線部②「コンサートがもはや『現実』に占める位置は同じではありえない」とあるが、筆者がそのように考える理由の説明として

適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 従前のコンサートは、人間の身体から生まれる「生の声」を聴ける唯一の機会だったが、記録メディアの普及により、複製の音声はどこでも再生できるものとなってしまったから。

イ 記録メディアや通信技術の発達で、コンサート会場に響いている音響と、手もとの端末のなかでローカルに再構成されている音響を聴いているライブ配信との格差がなくなったから。

ウ 会場に流れる音響が記憶媒体からの再生であっても「現実」の一部として受容される今日は、かつてのコンサートが持ち得ていた一回性や臨場性といった価値が変容しつつあるから。

エ 会場で流れている音響そのものが記憶媒体からの再生であり、その場にいる歌手も実際には歌っていないという状況が、現在のコンサートでは主流になってしまっているから。

オ テクノロジーの高度化と普及により、メディアに記録されて伝達される音響パターンと音楽が同一視されるようになり、時と場所の制約を受けるコンサートは敬遠されているから。

問17 傍線部③「真っ向から対立した姿勢を示している」とあるが、両者はどのような点が異なるのか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア コープは、人工知能による自動作曲という試みを通して、コンピュータにも創造性があることを論証しようとしているのに対して、三輪は、「音楽」が成立するための必要十分条件を明らかにすることを目的として「逆シミュレーション音楽」を模索している。

イ コープは、批判的再構成というしかたで「音楽」の可能性を追求するラディカルな試みとして、データ駆動型自動作曲をおこなっているのに対して、三輪は、既存の社会的制度を前提としない古代に「ありえたかも知れない音楽」をコンピュータで蘇よみがえらせようとしている。

ウ コープは、シンギュラリティに向けて、創造性には意識も知性も生命も不要であるという主張を証明するためにAIによる自動作曲を試みているのに対して、三輪は、AIには作曲はできないとして、テクノロジーへの依存を最小限にとどめようとしている。

エ コープは、特定の作曲家の様式を模倣して組み合わせた音響パターンをコンピュータが作曲した音楽としているのに対して、三輪は、コンピュータ・シミュレーションによって、古代人や未開民族が行っていたかも知れない新しい音楽を生み出そうとしている。

オ コープは、クラシック音楽の作曲家の作品とAIが作曲した作品を比較して「音響態」の可能性を研究しているのに対して、三輪は、人間の身体を媒介とした音楽と「音響態」とが根本的に異なるものであることを明らかにしようとしている。

問
18

空欄

に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 人はコンピュータが生成した作品を芸術とは考えない。
- イ 模倣の自動化は実装できても共感の実装できない。
- ウ 作品の様式の模倣では作曲家の内面に迫ることはできない。
- エ 人間の指示に従って生成した曲はAIの作品とは呼べない。
- オ 聴力のないAIには「音楽」を鑑賞する能力がない。

問19 傍線部④「いまだ到達にはほど遠いというべきなのだ」とあるが、筆者はなぜそのように言うのか。その説明として適当なものを、ア

イ オの中から選んで答えなさい。

ア コープのように、特定の作曲家の様式の模倣をおこなうというやり方で「自動作曲」を続けているうちは、コンピュータが生成した作品が芸術作品として世に認められることはありえないと考えるから。

イ テクノロジーの高度化と普及によって、人間の身体を介することが必須ではなくなった場面が増えただけで、人為を介さないAIが存在しない以上、シンギュラリティが到来することはないと考えるから。

ウ 作品のオリジナリティは作曲家の個性に属するが、AIが模倣に依^よらない作曲を自発的におこなったり、個別の特徴を有した作品を生み出さないかぎり、AIが人間の能力に追いついたとは認められないと考えるから。

エ 人間の能力を凌駕する「スーパーインテリジェンス」の出現が予測されているが、現状では、AIは人間の活動の一部を代替的に担うことしかできず、人間と同等の能力をもつ段階にすら至っていないと考えるから。

オ 作曲のプロセスのごく一部を担当しただけのAIの「自動作曲」を創造活動と考えているかぎり、他律システムであるAIの能力が、身体性を基盤とする人間の能力を超えたとは言えないと考えるから。

問20 本文の内容に合致しないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア テクノロジーの進展で、コンピュータ・ネットワーク上の仮想のキャラクターと、固有の身体・人格をもたない人工音声とを結びつけてできた音響パターンが、音楽として受け入れられるようになってきている。

イ 人間には、知覚した物理的なデータと脳が考えた結果との間に生じた矛盾を解決しようとして、無意識のうちに辻褃あわせをした結果を、そのまま「現実」として受けとる機能がある。

ウ コープによる創造性の定義は、人工知能が生成した音楽作品と、その模倣の対象となったクラシック音楽の作曲家の作品との比較によって、妥当性がないということが明らかになっている。

エ 三輪眞弘の考える音楽にとっての必要条件の一つは、人間が規則を解釈し、学習によって無意識化するまで身体を使って現実のものとすることであり、彼はこれを三つの相のうち「解釈」の相と定義している。

オ 「逆シミュレーション音楽」は、実際には存在しないが「ありえたかも知れない音楽」を、既存の枠組みを介在させず単純に空想したうえで、その空想を検証しながら生み出した音楽である。

第三問 次の設問に答えなさい。

問 21 次の文の傍線部の故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

囊中の錐のたとえの通り、彼はすぐに出世していくだろう。

- ア 優れた人間は、とかく周囲から妬まれ、妨げられるものだということ。
- イ 優れた人間は、多くの人々の中においても自然と頭角を現すということ。
- ウ 優れた人間は、自分の才能を無駄にひけらかしたりはしないということ。
- エ どんなに優れた人間でも、努力を怠れば大成しないということ。
- オ どんなに優れた人間でも、上司に恵まれることの方が大切だということ。

問 22 次の文の傍線部の故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

競争相手のA社の営業部は、海千山千の強者つわものぞろいであると聞く。

ア 物事をよく知っていること。

イ 業界の事情に通じていること。

ウ 長年勤めて経験豊富なこと。

エ 場数を踏んでしたたかなこと。

オ 数々の失敗を乗り越えたこと。

問 23 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

ネットワーク上にある端末同士を接続し、多数の参加者に同一のデータを分散保持させる
は、改ざんが困難でシステムがダウンしにくいため、仮想通貨などで利用されている。

ア ブロックチェーン

イ データベース

ウ ビットコイン

エ P2Pネットワーク

オ スマートコントラクト

問 24 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

C h a t G P Tや生成A Iが注目されるようになり、A Iから適切な出力を得るために指示や命令を設計し、最適化するスキルである
が求められるようになった。

ア データサイエンス

イ インタラクティブ

ウ チャットボット

エ プロンプトエンジニアリング

オ ニューラルネットワーク

問 25 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

近年のビジネスにおいては、W e b サイトや S N S をうまく活用することは必須となり、インプレッションが重要視されている。

ア ブランドの認知度を向上させるために、広告を有効に発信するための施策。

イ 広告や S N S の発信がクリックされ、実際に売り上げに貢献した度合い。

ウ 広告や S N S の発信に対する、「いいね」や「リポスト」などの反応総数。

エ ユーザーの声をマーケティングに生かすための、公式アカウントの運用戦略。

オ W e b 上に表示された広告などが、インターネットユーザーの目に触れた回数。

